

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和5年3月)

～インバウンドの増加やマスク着用の緩和で、現状判断は続伸～

- 景気ウォッチャー調査・3月調査の近畿地域の結果は、現状判断が55.2と前月比で4か月連続の上昇(+1.6ポイント)となった。好不調の目安となる50も3か月連続で上回っている。さらに、先行き判断も56.5と3か月連続の上昇(+3.8ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンドの増加傾向が続いており、百貨店やホテル、レジャー施設等で好調な推移がみられる。中国本土からの観光客はまだ限定的ながら、全体的な増加が続いている。旅行関連では、全国旅行支援の制度縮小に伴い、国内客の動きはやや鈍化しつつも、インバウンドの増加がそれを補う形となっている。また、マスクの着用が緩和されたことで、消費者の意識が開放的となり、各業種で客足の増加につながるといった効果もみられる。
- 一方、物価やコストの上昇は続いており、多くの業種に悪影響が出ている。スーパーや小売関連を中心に、消費マインドの低下や節約志向の強化が続いているほか、製造業や建設業といった企業取引関連からも、価格転嫁の遅れによる経営環境の悪化を懸念する声が依然として多い。
- 先行きについては、インバウンドの増加に対する期待が、百貨店やホテル、レジャー施設、観光名所などを中心に引き続き高い。特に中国からの入国規制の緩和を受け、売上の増加を見込む声が多く聞かれる。加えて、5月上旬に新型コロナウイルスが5類感染症に移行するのを受け、百貨店や外食、観光関連など、幅広い業種で需要回復への期待が高まっている。
- 一方、足元でコストの上昇が続くなか、物価の上昇に対する警戒感は依然として強い。スーパーや衣料品での節約志向に対する懸念のほか、ホテルや旅館からも、コスト上昇に価格転嫁が追いつかないといった声が聞かれる。価格転嫁については、企業関連でも厳しい声が多く、幅広い業種で収益悪化への懸念が高まっている。依然として円安傾向が続くなか、コストや諸物価の上昇に対する不安は、業種を問わず依然として高い。

「マスク着用の緩和」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(サービス担当)	・コロナ禍関連の行動制限がなくなったほか、マスク着用が個人の判断となり、外出する機会が増えている。それに伴い、婦人服や化粧品の売上が拡大し、来客数も好調に推移している。また、外国人観光客による来店も増加が続くなど、インバウンド効果も好調に推移している。
		百貨店(服飾品担当)	・3月に入り、開店と同時に来店する外国人のツアー客などが増え、インバウンド売上が伸びている。また、国内客も来店時のマスク着用が自由になった解放感から、購買意欲が高まり、ラグジュアリー関連を中心に売上が2けた以上の伸びとなった。一方、衣料品関連も春物需要が好調で、コスメ関連も大きく売上が伸びている。食品関連も順調で、外出の増加によって行楽関連の食材が伸びている。
		都市型ホテル(客室担当)	・マスク着用の緩和や全国旅行支援の効果もあり、来客数が増えた。桜の開花が早まったことで、週末の稼働は満室となっている。

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（管理担当）	・物価の上昇などの懸念材料はあるものの、マスク着用の緩和といった日常を取り戻す動きが出てきたため、心理面で安心感が広がっている。
		百貨店（販売推進担当）	・13日からのマスク着用の緩和や、お彼岸シーズンに入ったこともあり、今まで出控えていた高齢者の来客が一気に増えている。
		百貨店（外商担当）	・3月13日からは、マスクの着用が個人の判断に委ねられるようになった。店舗でマスクを外す客は少ないものの、開放的になっているように見え、実際に外出用の婦人服や、旅行用品の売上が伸びている。一方、一部の海外ブランドの時計や宝飾品は、高額品であるにもかかわらず売れており、品薄状態が続いている。
		百貨店（商品担当）	・2月の後半から3月にかけて、婦人服や化粧品の販売が好調である。卒業や入学といったセレモニー関連の復活で、婦人服が好調に動いているほか、3月13日からのマスク着用の緩和が、化粧品の好調につながっている。
		百貨店（宣伝担当）	・マスクの着用が緩和され、外出に必要な物を購入する客が増えている。化粧品関連の商材だけでなく、夏物商材であるパラソルや帽子などの動き出しが、前年よりも早くなっている。
		百貨店（マネージャー）	・3月中旬からのマスク着用の緩和もあり、顧客心理が改善し、人流も増えた。気温の上昇で、国内の中間層によるファッション商材やレストラン、行楽弁当などの動きが好調なほか、インバウンド需要も大幅に増えるなど、全体的に消費が活発となっている。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・客単価が上がり、購入点数も増加している。外出へのちゅうちょがなくなったほか、脱マスクに向けて、メイク商品の売上が伸びている。
		都市型ホテル（総務担当）	・宿泊需要は大きく回復しているが、宴会、レストランの需要回復が遅れている。マスク着用の緩和効果はさほどみられず、5月8日までは厳しい状況が続くと予想される。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・5月の新型コロナウイルスの5類感染症への移行や、3月13日からのマスク着用の緩和を経て、本格的にかつての日常を取り戻しつつある。WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）での日本代表の優勝も、消費者を元気付けるきっかけとなっている。
		な	やや悪くなる

「インバウンドの増加」関連のコメント(現状判断)

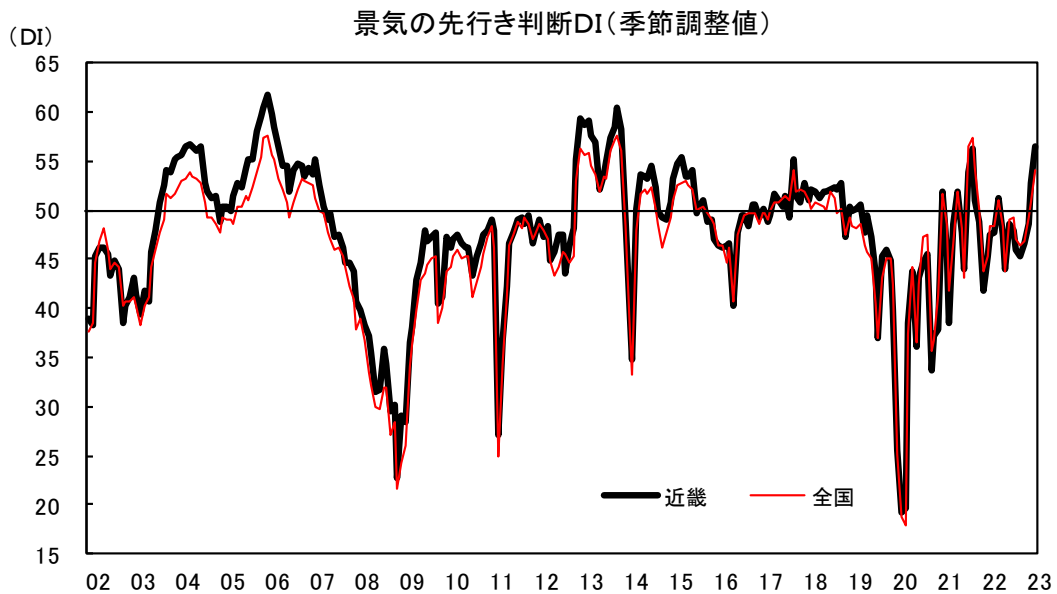
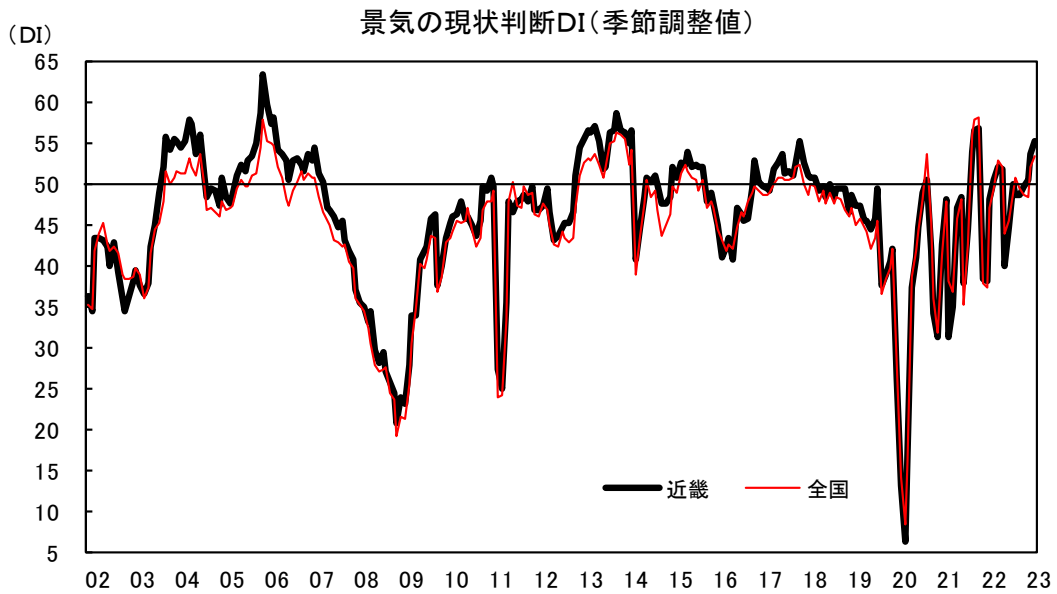
家計動向関連	良くなっている	百貨店（売場主任）	・コロナ禍が落ち着き、関西国際空港経由でのインバウンドの入国が増えることで、3月は都心店の来客数が前年比で20%増えている。一方、郊外店の入店は0.1%の増加にとどまるが、売上は1.0%の増加と明るさがみられる。
		百貨店（サービス担当）	・コロナ禍関連の行動制限がなくなったほか、マスク着用が個人の判断となり、外出する機会が増えている。それに伴い、婦人服や化粧品の売上が拡大し、来客数も好調に推移している。また、外国人観光客による来店も増加が続くなど、インバウンド効果も好調に推移している。
		百貨店（服飾品担当）	・3月に入り、開店と同時に来店する外国人のツアー客などが増え、インバウンド売上が伸びている。また、国内客も来店時のマスク着用が自由になった解放感から、購買意欲が高まり、ラグジュアリー関連を中心に売上が2けた以上の伸びとなった。一方、衣料品関連も春物需要が好調で、コスメ関連も大きく売上が伸びている。食品関連も順調で、外出の増加によって行楽関連の食材が伸びている。
		百貨店（外商担当）	・国内客が完全に回復しているほか、インバウンドの回復も目を追うごとに顕著となっている。店舗周辺の往来が、新型コロナウイルス感染症発生前に近いレベルまで戻っている。
		コンビニ（店員）	・外国人旅行者が増えている。
	やや良くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・インバウンド効果に尽きる。卸売の売上の減少分を、補って余りあるプラスが出ている。
		百貨店（マネージャー）	・3月中旬からのマスク着用の緩和もあり、顧客心理が改善し、人流も増えた。気温の上昇で、国内の中間層によるファッション商材やレストラン、行楽弁当などの動きが好調なほか、インバウンド需要も大幅に増えるなど、全体的に消費が活発となっている。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約人数の規模が大きくなっているほか、外国人による予約が明らかに増えている。
		観光型旅館（経営者）	・動きの良かった高級ホテルの動きが、1～2月は急に鈍くなったが、今月は少し回復傾向にある。客が活発に動いているほか、インバウンドが増え始めたという実感があ
		観光型旅館（経営者）	・全国旅行支援も6月末まで延長され、控えられていた予約も順調に入り始めた。インバウンドも一気に増え始めたため、ようやく以前の9割近くにまで回復している。
観光型旅館（団体役員）		・春休みや全国旅行支援の効果で、かつてのようなにぎわいがみられる。さらに、少しでもインバウンド客の利用も増えている。	
都市型ホテル（管理担当）		・外国人旅行者の増加傾向がみられ、客室の利用や、レストラン等の来客数が順調に増えている。	
都市型ホテル（客室担当）	・中国本土からの入国規制が更に緩和され、インバウンドの動きの活発化が実感される。		
都市型ホテル（販売促進担当）	・前年3月は、まん延防止等重点措置の影響で稼働率が53%であったが、コロナ禍の影響が弱まってきた今年は83%の見込みである。今月はかつての春の勢いが出てきており、卒業旅行や高校野球関係のほか、出張も通常の動きに戻りつつある。また、韓国や中国などの海外からの宿泊需要が増加していることも、好調の原因となっている。		

家計動向関連	やや良くなる	その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・イベントが来場者で満員となっており、物販の売上が伸びている。また、当施設への来場者以外に、周辺施設では外国人を中心とした観光客が増え、活気を取り戻している。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	・コロナ禍からの回復により、国内の観光客やインバウンドが増加傾向にある。
	変わらない	百貨店 (企画担当)	・前年比での増加率は3か月前よりも大きいですが、前年は3月中旬頃まで、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が続いていた。インバウンドについては、中国本土からの旅行者が少しずつ増え、売上に占める化粧品のシェアが拡大している。
		スーパー (店長)	・行動制限などの緩和で、外食や行楽の動きが増え、来客数に影響が出ている。その反面、観光やビジネスでの外国人の入国が増えており、都心や観光地近くの店舗は良い状態が続いている。一方、郊外店舗は訪日外国人の恩恵がなく、かつての状態に戻りつつある。
		その他専門店 [宝飾品] (販売担当)	・海外からの旅行者の増加で、街はにぎわっているが、旅行を優先する客が増えてきたことで、集客が難しくなっている。
旅行代理店 (店長)	・訪日客は増えているが、当店の取扱いはチケットのみで、来客数の割に売上は大きく増えていない。海外旅行の間合せや相談は増えているが、話を聞くだけの客も多く、申込みに至るケースは少ない。		

「新型コロナの5類移行」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	良くなる	百貨店 (服飾品担当)	・ゴールデンウィークや、新型コロナウイルスの5類感染症への移行などにより、外国人客の来店増加が期待できるほか、国内客もコロナ禍からの解放感から売上が更に増える。また、国内客の海外への渡航増加による関連需要や、ハレの日関連のファッション需要も高まることが期待される。
		百貨店 (売場主任)	・コロナ禍が収束に向かい、5月に新型コロナウイルスの5類感染症への移行が進めば、人の動きが更に活発化することが予想され、やや景気は良くなる。
	やや良くなる	百貨店 (売場マネージャー)	・5月以降、新型コロナウイルスの5類感染症への移行を控え、消費にも大きな変化が出てくる。訪日観光客の動きも活発化する中、国内景気は上向くことが予想される。
		百貨店 (売場マネージャー)	・コロナ禍が収束傾向にある。特に、5月からは新型コロナウイルスが5類感染症に移行となり、既にマスクの着用も緩和された。今後は飲食店関係の動きが活発化し、景気も少し上向くと予想される。懸念材料は食料品の値上げや水道・光熱費の上昇であり、消費者の生活防衛意識が強まることで、売上に影響が出る可能性がある。
		都市型ホテル (総務担当)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、社会生活が変化し、飲食店にもぎわいを取り戻す。ただし、3年間の制限された生活からの、回復の速度や量については不透明である。
		都市型ホテル (販売促進担当)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、需要がどのように変化するのか分からないが、宿泊、レストラン共に少しずつ客が増えており、今後の見通しは明るい。ただし、宴会部門は戻りが悪く、特に高齢者の多い同窓会関連は動きが遅い。コロナ禍で長らく集まりがなかった影響で、外出したり、集まって話すのが面倒といった声も多く、コロナ禍をきっかけに、同窓会が減っていくことを心配している。
		旅行代理店 (支店長)	・5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行するのをきっかけに、客の消費マインドが高まる。ちょうど夏の旅行受注のタイミングであり、景況感も良くなる。
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行することもあり、消費者の意識が日常に戻りつつある。様々なイベントも開催され、活気が戻ってくると予想される。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行による、行楽マインドの上昇や、中国からのインバウンドの増加に期待している。
	住宅販売会社 (総務担当)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行に伴い、来店予約の増加による成約や、打合せが進むことを期待したい。	
	変わらない	百貨店 (営業推進担当)	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行する5月は一時的に伸びるが、原材料価格の高騰による影響は続くため、全体的な傾向は大きく変わらない。
		その他専門店 [宝飾品] (販売担当)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行が決まると同時に、人の流れは以前の水準に戻りつつある。季節要因もあり、ゴールデンウィークに向けて観光客が更に増えると予想される。ただし、消費の対象となるのは宝飾品ではなく、これまで控えられてきた娯楽や旅行、飲食が中心となる。
		都市型ホテル (客室担当)	・新型コロナウイルスの5類感染症への移行で、消費者の解放感が強まるほか、インバウンドの増加によるプラス効果はあるものの、インフレによる悪影響が続く。
		競艇場 (職員)	・全国的に売上はやや停滞しているが、新型コロナウイルス感染症発生前よりも高い水準で推移しており、急激な減少ではない。新型コロナウイルスの5類感染症への移行による影響を見極める必要があるが、今後も高水準の売上がしばらく続くことが予想される。
雇用関連	やや良くなる	人材派遣会社 (役員)	・5月8日からの新型コロナウイルスの5類感染症への移行や賃上げの影響で、景気は良くなる。政府の経済対策があれば、更に良くなる。
		人材派遣会社 (営業担当)	・週末の市内の繁華街などでは、多くの観光客を目にするようになった。インバウンドが戻りつつある実感や、5月には新型コロナウイルスが5類感染症に移行することもあり、人の動きも活発になると予想される。
	変わらない	その他雇用の動向を把握できる者	・インバウンド需要の復活や、先を見据えた人材の確保により、求人数は業種を問わず堅調に推移する見込みである。一方、それに対する求職者の動きはまだ弱い。足元では就職件数が上向くなど、就職活動の活発化がみられるが、継続するかどうかは見通せない。新型コロナウイルスの5類感染症への移行や、賃上げによる労働環境の改善、大阪・関西万博の開催に向けた動きなどを背景に、転職活動が進むなど、労働市場が更に活発化すれば、好転する可能性も出てくる。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		21年			22年												23年									
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
現 状 判 断	近畿	48.2	31.3	34.9	47.0	48.3	37.9	44.5	54.0	56.5	56.8	38.3	38.2	48.2	50.5	52.2	51.9	40.0	44.7	50.1	48.8	48.7	49.8	50.4	53.6	55.2
	(全国)	47.8	38.1	36.9	45.8	48.1	35.1	42.7	56.0	58.0	58.3	37.9	37.4	47.1	49.5	53.0	52.1	43.9	45.5	48.9	50.8	49.4	48.7	48.5	52.0	53.3
先 行 き 判 断	近畿	45.9	38.6	48.6	51.8	47.7	44.0	53.9	56.3	51.1	48.9	41.9	45.2	47.5	47.8	51.2	47.4	43.9	48.6	48.0	45.9	45.4	46.6	48.6	52.7	56.5
	(全国)	48.7	41.7	46.7	51.9	48.2	43.2	56.6	57.3	54.3	50.1	43.7	45.3	48.4	48.4	51.1	48.4	43.7	49.0	49.2	47.1	46.3	46.8	49.3	50.8	54.1

※季節調整値